

資料 取扱注意事項

ロックウール化粧吸音板の用途選定の注意点

・ロックウール化粧吸音板には、下記の注意点があります。設計（検討）にあたり必ず用途を確認の上、誤った使用がないように注意してください。

【ソーラトン】

・ソーラトン、ソーラトンキューブ、ソーラトンライト・ワイドは**屋内専用**です。**屋外や湿気の多い場所には使用しないでください**。落下の原因となります。

【ソーラトン不燃軒天】

・ソーラトン不燃軒天は、屋外にも使えますが**直接雨水や潮水のかかるようなところには使用しないでください**。落下の原因となります。

【グリッド天井】

・グリッド天井工法は、**過大な振動や衝撃の加わる場所などの特殊用途には使用できません**。下地材の破損や天井板の落下の原因となります。



注意

保管方法について

- ・ロックウール化粧吸音板および施工に関係する施工金具は、降雨や降雪、その吹き込みによる浸水や湿潤の害を受けないよう、常に乾燥した清潔な環境の所で保管してください。
- ・ロックウール化粧吸音板の四隅や角が損傷しないように安全な場所を選び、壁面から1m以上離し、床には捨て板またはシート等防湿性のあるものの上に、平らに置くようにしてください。
- ・溶剤系の接着剤は、火気厳禁ですので、消防法に規定する集積限度数を守ってください。集積限度数以上の場合は、所轄消防署および消防署長の承認が必要となります。



注意

運搬方法について

- ・運搬に際しては、衝撃を与えたり荷姿を崩すことのないよう、丁寧に扱ってください。衝撃によっては、ロックウール化粧吸音板やグリッド天井用金具が破損することがあります。
- ・車高等の荷台には平らに置き、運搬する時は必ず固定してください。また、横置き・縦置きは避けて運搬してください。
- ・ロックウール化粧吸音板、接着剤の運搬に当たっては、転倒、落下、破損がないように荷崩れ防止を確実に行ってください。



警告

取扱い方法について

- ・ロックウール化粧吸音板および施工金具の取扱いは、油気や汚れのない清潔な手（きれいな軍手）で行ってください。
- ・ロックウール化粧板の取扱いは、「本記載事項及び施工要領書」をよく読んで取扱ってください。
- ・梱包箱に記載してある、『ロックウール製品の取扱い上の注意』をよく読んで取り扱ってください。
- ・ロックウール化粧吸音板等の残材は産業廃棄物となりますので「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づいて適正に処理してください。



警告



警告



警告

軽量下地工事について

- ・軽量下地工事及びボード張り工事は、「国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 公共建築工事標準仕様書（建築工事編）」に準じて行ってください。
- ・特に大規模空間を持つ建築物については、都道府県の国土交通省通達「大規模空間を持つ建築物の天井の崩落対策（技術的助言）」に準じて工事を行ってください。



注意



注意

施工方法について

ロックウール化粧吸音板の施工は、油気や汚れのない清潔な手（きれいな軍手）で行ってください。

- ・ロックウール化粧吸音板の切断、穴あけその他の加工は、カッターナイフ等の手動工具を使用し、必ず化粧面から行ってください。
- ・切断面が不整形の場合は、木工用の粗ヤスリかサンドペーパーをかけて平らに仕上げてください。
- ・取付金具等の取り扱いは、ケガのないように注意して行ってください。
- ・天井裏の配線、配管工事は、ロックウール化粧吸音板の施工前に完了するよう、作業手順を打ち合わせください。
- ・ロックウール化粧吸音板の裏面には、矢印が表示されていますので、必ずこの矢印方向を揃えて施工してください。
- ・同じ部屋または同じスペースでのロックウール化粧吸音板の施工は、できるだけ連続して行い、残った部分は日を置かずに取付けてください。またその場合、同一ロットの商品を使用するようにしてください。
- ・設備機器等の納まりは、事前に充分打ち合わせしてください。
- ・施工後の設備工事による、ロックウール化粧吸音板の損失被害がままありますので、この点を留意して作業手順を決めてください。
- ・ロックウール化粧吸音板の施工では、粉塵が発生する場合があります。必ず防護めがねおよび防塵マスクを使用してください。



注意



注意



注意



警告

【捨て張り工法の場合】

・使用する下地の種類は、ロックウール化粧吸音板の種類と、使用する場所によって異なりますので、下表のようにしてください。

使用部位	ロックウール化粧吸音板	捨て張り材	軽鉄下地材
屋内	ソーラトン	せっこうボード (タイガーボード)	鋼製天井下地 19型
軒天	ソーラトン不燃軒天	ケイカル板	鋼製天井下地 25型

- ・ロックウール化粧吸音板の仕上がり結果は、下地の良否により大きな影響を受けますので、目違い、凹凸、湾曲、目地あき、不陸等不良のないことを確認してから施工してください。
- ・ロックウール化粧吸音板の下地ボード目地部は、空気の流通によって汚れが発生する場合があります。例えば室内と天井裏の気圧が異なる環境では、下地目地部の空気の流通が起きやすいと考えられますので、現場状況を判断の上、ジョイントテープ等で下地の目地処理を行う必要があります。
- ・ロックウール化粧吸音板の割付けは、下地ボードの目地と重ならないようにしてください。
- ・ロックウール化粧吸音板の施工は、必ず接着剤とステープル又はネイル併用で施工します。
- ・接着剤と塗布量およびステープル又はネイル等は、ロックウール化粧吸音板の標準品については次の表のように使用してください。

使用部位	ロックウール化粧吸音板	接着剤と塗布量	ステープル又はネイル等
屋内	ソーラトン	酢酸ビニル樹脂系エマルジョン形接着剤 「吉野サクビボンド」 (JISA 5538適合品) 150g/㎡以上	2mmまたは4mm幅・足長19mmのステープル（天井板の厚さにより、足長22～32mmのステープルもしくは長押用ビス留め。ビス留めの場合は、パテ処理の上、現場塗装仕上げ）又はネイル等
軒天	ソーラトン不燃軒天	酢酸ビニル樹脂系溶剤形接着剤（JISA 5538適合品）300g/㎡以上	4mm幅・足長19mmのステンレスステープル（SUS304製以上）

- ・接着剤は、ロックウール化粧吸音板の裏面に点づけし、横にすらして所定の位置に圧着して必ず各々の天井板に合ったステープルまたはネイル等で施工してください。
- ・接着剤は、スプレー塗布あるいはローラー塗布による使用は、避けてください。接着力を低下させるとともに、施工後に目地あきや垂れ下がり等の原因となります。
- ・吉野サクビボンドを水で希釈して塗布することは、接着剤の接着力を低下させ、天井板の落下や目地あき、垂れ下がりの原因となりますので絶対に行わないでください。
- ・溶剤形接着剤を使用する場合は、火気に注意し、室内の換気や心掛け、必ず有機溶剤作業主任者立会のもとに作業を行ってください。
- ・有機溶剤は多量に吸入すると、人体に影響を及ぼす可能性があります。また皮膚に直接触れると、皮膚障害を及ぼす場合も考えられますので、施工の際には保護手袋等の保護具を使用してください。
- ・ステープルまたはネイル等は、ロックウール化粧吸音板の表面より飛出したり、入り過ぎたりしないように、コンプレッサーの空気圧の調整等をしてください。
- ・ステープルまたは釘等は、ロックウール化粧吸音板全体に均等になるように留めてつけてください。部分的に集中して留めつけると見栄えが悪くなりますので注意してください。
- ・ロックウール化粧吸音板の模様の手方向とステープルの肩幅をあわせて留めつけてください。
- ・ロックウール化粧吸音板の施工は、段違い、目地違い、隙間、角欠けにならないよう注意して行ってください。



注意



警告



警告



警告



警告



警告



警告



注意



注意



注意



警告



警告



注意

【グリッド天井工法の場合】

・施工に関しては、ロックウール工業会の設計施工資料に基づいて行ってください。その他、詳細は下地メーカー等にご確認ください。

【直張り工法の場合】～ソーラントライト・ワイド

- ・軒および外気に頻繁にさらされる場所への施工や、常時水や潮水がかかる箇所への施工はしないでください。落下の原因となります。
- ・建築用鋼製下地（天井）の直張り仕様に基づいた下地組みとし、野縁は目地部をダブルバーとして、その間にシングルバーを取り付け、壁際はダブルバーとしてください。
- ・直張り用ロックウール化粧吸音板は、鋼製天井下地にボード用タッピングビス（白色塗装品）で取り付けてください。木下地は施工後に下地のアバシやソリが発生し、目地空き等になる場合がありますので、使用しないでください。
- ・ボード用タッピングビス（白色塗装品）の留め付け数は、455×910サイズの場合は20本以上/枚程度としてください。
- ・スクリュードライバーは、天井板保護のため、必ず専用ゴム製ストッパー「STワイドストッパー」を使用してください。（P10.17参照）
- ・ソーラントライト・ワイドの板そのものに照明等の設備を直接吊り下げないでください。破損や落下の原因になります。
- ・体育館での直張り工法のご採用は避けてください。ボールなど表面から強い衝撃が加わった場合、ロックウール化粧吸音板が破損したり、落下する原因になります。
- 施工後の養生について（ソーラントライト・ワイド、グリッド天井は除く）
- ・施工完了後は、少なくとも3昼夜はロックウール化粧吸音板への衝撃や接触を避けてください。
- ・夜間は、外気との通風を遮断してください。
- ・施工完了後、空調設備機器の試運転をする場合、急激な負荷は避けてください。
- ・長時間空室になる場合は、高温多湿にならないように換気をよくしてください。
- 現場塗装方法（ソーラントをやむをえず現場にて塗装するとき）
- ・ソーラント（捨て張り工法）の施工後、日を置かずにお好みの色に塗装する場合は、次の仕様を参考にしてください。

塗料		ビニデラックス#300(関西ペイント社製)	
調合割合	塗料	100	
	水	10~15	
	着色剤	ビニデラックス原色	
塗布量(g/m ²)	200~250		
放置時間	2時間以上		

- ・ビニデラックス#300、ビニデラックス原色（着色剤）は市販品です。ビニデラックス#300は、アクリル樹脂エマルジョン系塗料です。
- ・塗料の使用量は、400~500g/m²（歩留り50%）
- ・塗装は必ず、ソーラント捨て張り施工後、3日目以降に行ってください。
- ・室温5℃以下の条件のもとでの吹付け塗装は避けてください。性能を発揮する塗膜を形成しない可能性があります。
- ・塗装の場合、ハケ塗りやローラー塗りは避けてください。均一に仕上がらない可能性があります。
- ・ソーラントがストライプ柄の場合は、塗装ムラのないように、柄の傾斜面に対して一定の角度を付け、2方向から吹付け塗装してください。クロス柄の場合は、同様に4方向から吹付け塗装します。
- ・塗装仕上がりの良否の判定は、乾燥後行ってください。
- ・グリッド天井やソーラントライト・ワイドへの現場塗装はお止めください。タワミ等の問題が発生する原因になります。

●引き渡し後の取扱いについて

- ・ロックウール化粧吸音板の部分には、重いものを直接吊り下げないでください。破損し落下の原因になります。
- ・ロックウール化粧吸音板の部分に、画鋲やピンを刺さないでください。表面に穴があき破損します。
- ・先の尖った物等で、ロックウール化粧吸音板を突かないでください。ロックウール化粧表面に穴があき破損します。
- ・ロックウール化粧吸音板の部分に、ガムテープ等を貼らないでください。テープを剥がす際、表面の塗膜が一層に剥がれる場合があります。
- ・汚れた手や濡れた手で、ロックウール化粧吸音板に触れないでください。表面に汚れや傷がつかます。
- ・マジックやボールペンで、ロックウール化粧吸音板に線等を描かないでください。消すことができません。
- ・水や洗剤の含んだ雑巾等で、ロックウール化粧吸音板を拭いたり、こすったりしないでください。ロックウール化粧吸音板の表面が傷つきボロボロになります。
- ・家庭用薬品（漂白剤、トイレの洗浄剤等）をロックウール化粧吸音板にかけないでください。ロックウール化粧吸音板表面が変色します。
- ・ロックウール化粧吸音板表面のほこり等を取る場合は、ハタキ等でほこりを落して掃除機で吸い込んでください。掃除機の吸い込み口を、直接ロックウール化粧吸音板表面には当てないでください。ロックウール化粧吸音板の表面が傷つく恐れがあります。



危険



注意



警告



危険



注意



注意



注意

- ・ロックウール化粧吸音板の屑は、食べられません。乳幼児の口に入らないよう充分ご注意ください。
- ・ロックウール化粧吸音板は不燃認定材料ですが、仕上がったロックウール化粧吸音板にライター等の火源を近づけないでください。表面の塗料部分が焦げ、変色します。
- ・水が掛からないようにしてください。ロックウール化粧吸音板表面が変色する恐れがあります。
- ・グリッド天井または直張り天井の場合、部屋の環境を長時間にわたり高温多湿にすることはしないでください。ロックウール化粧吸音板のたわみ、目地あきの原因となります。
- ・グリッド天井で、各部材を取外しその後復元する場合、部材及び固定金具は、必ず元の通りに取付を行ってください。また、その際の取り扱いも、ケガのないように注意して行ってください。
- ・ロックウール化粧吸音板は、下から強い衝撃や力を掛けないでください。ロックウール化粧吸音板が破損したり、浮き上がり落下する原因になります。
- ・天井裏での点検に伴う作業がある場合、軽鉄下地や点検口金具及びロックウール化粧吸音板に、絶対に寄りかかったり乗ったりしないでください。天井が落下し、ケガをする恐れがあります。
- ・ピロティーなど、区画に対して開口面積の大きい場所では、外部仕様の下地組みとし、天井裏面の下地等に結露が発生しないよう、必ず室内換気および天井裏排気を行ない結露防止を図ってください。換気や排気を行わないと、シミやカビの発生の原因となります。
- ・ロックウール化粧吸音板が長期間の使用によってひどく汚れた場合、水拭き等は行わないでください。破損の原因となります。この場合は、現場塗装方法（但し捨て張り工法のみ）による再塗装を行うか、張り替えをしてください。また、カビによる汚れの場合は、再塗装を行っても再発することがありますので、原因を突き止め発生を防止し、除菌等のクリーニングを行ってください。
- ・ロックウール化粧吸音板の屑・ゴミは、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づいて適正に処理してください。

注意事項 特記

以下の事項を厳守してください。接着不良による接着力低下や強度不足による剥落・落下の原因となります。

◆使用箇所および工事について

- ・地下室、浴室、屋内プール、サウナ室など、高温多湿で漏水の恐れのある過酷な条件下での使用は避けてください。
- ・外気にさらされるような箇所への使用は避けてください。（ソーラント不燃軒天を除く）
- ・常時水掛かりするような箇所への使用は避けてください。
- ・建物が新しく、かつ相当な湿気をもっている場合は、換気・通気を良くし、壁面に水滴がないことを確認してください。
- ・左官工事は早目に完了させ、ロックウール化粧吸音板の施工前までには室内を十分に乾燥させて、極度な湿気がない状態にしてください。
- ・定期的に施工現場の湿度を測り、高い湿度の場合の施工はお避けください。（相対湿度は約80%以下に保つようにしてください）
- ・「吉野サクビボンド」は水で希釈せず原液で使用してください。

◆ソーラントライト・ワイド(直張り工法)について

- ・体育館での採用はボールなどによる表面に強い衝撃が加わると破損したり落下する可能性がありますので、お避けください。
- ・照明などの設備を直接板へ吊り下げないでください。